

マー君

2025.4.9

あれは、4月3日のことだった。テレビで久しぶりに日本のプロ野球を見た。最近では、自分から日本のプロ野球を見ることなど滅多にない。今では、ドジャースの試合を見るほうが多い。

この日は、見ないわけにはいかなかった。あのピッチャーが投げるからである。マー君である。巨人に移籍した田中将大投手である。日本が生んだスター選手の一人である。

高校時代は、北海道の駒澤大学附属苫小牧高校のエースとして活躍し、夏の甲子園3連覇が懸かった決勝戦が引き分け再試合となり、ハンカチ王子こと斎藤佑樹投手の早稲田実業高校に敗れた。プロ野球に進み、楽天ゴールデンイーグルスで活躍した。当時の野村監督が、「マー君、神の子、不思議な子」と言っていた。

そして、何と言っても、2013年のシーズンである。星野監督の下、神の子マー君は、投げると負けなかつた。24勝0敗という驚異的な成績を残した。日本シリーズでは、第6戦に先発し、9回を完投した。3勝3敗となり、最終の第7戦、楽天がリードを保ち9回を迎えた。

テレビで見ていたが、最後はマー君が出てくるような気がした。いや、出てきてほしかつた。だが、前日に9回を投げきったピッチャーが、次の日に投げることなど常識ではあり得ない。すると、星野監督が主審に近づき、「タナカ！」と怒鳴るように言い放つた。マー君がマウンドに上がつた。あのとき、どれほどの人が歓喜し、涙しただろうか。楽天の初優勝だった。震災後の東北に、どれほどの勇気と感動を与えたことだろう。その中に、神の子マー君がいた。

その後、マー君は、海を渡り、アメリカ大リーグで活躍した。楽天に戻つたが、なかなか活躍できなかつた。200勝まで、あと3勝と迫つてゐる。これほどの投手である。プロ野球投手の勲章である200勝をぜひ達成してほしい。

今シーズンから巨人に移つた。その初登板が4月3日だった。久しぶりに多少ドキドキしながらテレビを見ていた。何とかリードをして5回を投げきつてくれ。そうすれば、198勝に近づく。マー君のボールには、以前のようなスピードはない。だが、気迫というか気持ちで投げているようになつた。試合は、巨人が先に得点をした。中日も1点を返す。その後は、得点を与えず5回を投げきつた。これで一安心である。

試合は、5-3で巨人が勝つた。マー君の198勝目である。野村監督が、マー君、神の子、不思議な子と言ってからだいぶ経つ。だが、今も変わらない。そのままである。きっと、田中将大投手は、特別な星の下に生まれてきたのだろう。あと2勝である。次も、ドキドキしながらマー君の勇姿を見たい。